

vol. 2329

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館  
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

# 大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



## 今号の掲載内容 (掲載順)

- 日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！  
第72次教育研究大分県集会
- 平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立  
日教組第74次教育研究全国集会

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！

## 第72次教育研究大分県集会

<b>分科会</b>	とき：10月19日(土)	ところ：教育会館各研修室
<b>全体会</b>	とき：11月2日(土)	ところ：教育会館 多目的ホール

### 全体会

今年度の県教研全体会は教育会館多目的ホールを会場として、県教組、高教組の組合員の参加で盛大に開催されました。前川喜平さん(現代教育行政研究会代表)による「日本の教育政策について」と題した講演が行われました。文部科学大臣官房長や初等中等教育局長、文部科学事務次官を経験された前川さんならではの講演に参加者は時間を忘れ、聞き入っていました。

その後、第27代大分県高校生平和大使の花崎太智さん(宇佐高校)と仲間も参加し、「高校生1万人署名」についての説明や活動報告をしました。多くの方が、「核も戦争もない平和な未来を創ろう！」という趣旨に賛同し、署名をしてくださいました。

#### ● 参加者の感想 ●

- 文科省時代のご苦労や日本の教育政策についてお話を聴き、普段とは違う角度で教育について考えることができました。生徒も教員も自ら学ぶ姿勢、学ぶ楽しさを感じながら、日々学校生活が送れることが理想だということを改めて感じ自身刻み込みました。高校生の平和大使の活動報告会を聴き、世界を視野に行動している姿に大変感動いたしました。これからも頑張ってください、活動できる場を持続させていただきたいと思いました。
- 教育が政治に左右されていることを改めて感じました。これは本当に正しいのかと常に疑問をもちながらとりくむことの大切さを感じました。ありがとうございました。
- 子どもの貧困の現状や教育の民営化がもたらす問題など、考えさせられることが多くあった。不登校の数が過去最高を記録する背景に、どのように向き合うべきかを真剣に考えたいと思う。
- 楽しく、あっという間の講演時間でした。またお話お聞きしたいです。
- 高校生平和大使の報告の中で「自分が受けてきた教育がきっかけになり」といった言葉がありました。私たちの日々の実践やかかわり方・考え方が、子どもたちの将来に、未来に繋がっているのだと身の引き締まる思いでした。
- 今年度末で退職するので、何度も参加させていただき、学ぶことの多かった県教研も今回が最後になると思います。そんな立場だからこそなのか、今日改めて、組合員であるからこそ、今回のような貴重なお話を聞くこと、教育(教育政策)について学ぶことができる実感しました。この思いを後輩たちに伝えたいと思います。

講師：前川喜平さん

高校生平和大使：花崎太智さん(宇佐)

署名ありがとうございました。

## 教科・問題別分科会

第1分科会		日本語教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	高等学校国語教室における特別支援的環境の必要性	屋嘉比 心	中津北
2	夜の「たくわん」	福田晃一郎	日田定時制

第20分科会		選抜制度と進路保障	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	多様な困りに役立つ本	高橋 貴子	別府翔青
2	ホショウ・ゲンダイ	福田晃一郎	日田定時制

### 「日本語教育、その前に」

茨木 里香 (玖珠美山)

レポート数減に伴ってついに「日本語教育」分科会も合同開催と相成り、にもかかわらず参加者は運営+発表者で総勢5人。さすがにうっすらと危機感を覚えますが、明るいニュースも！「高等学校国語教室における特別支援的環境の必要性」の発表者・屋嘉比心（やかひしん）さんは今年度新採用・新加入・初参加です。沖縄の高校・特別支援学校での経験に基づくレポートからは、現在多くの学校で直面する「グレーゾーン」の子どもたちにどう対応すべきか、迷い多き現場の実践につながるヒントが得られました。「教研は私の楽しみ」という高橋貴子さんからは「多様な困りに役立つ本」7冊が紹介されました。特別支援コーディネーターならではのセレクトに、思わずその場で読み耽ってしまいそうでした。「国語力は学力の基礎」のようにいわれて久しく、その力をすべての子どもが少しでも高いレベルで身に付けるためには、心と体にアプローチできる私たちの力が欠かせません。家に帰って福田晃一郎さんからのお土産レポートをゆっくり読みたい、そんな思いの散会となりました。

第3分科会		社会科教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	国民国家の意義と課題を問う「歴史総合」の授業案 ～「ジグソー法」を活用して～	田尻 洋佑	中津南
2	公共と倫理のつながり	廣岡 健瑠	大分豊府
3	高校『日本史探究』と中学『社会科歴史分野』との比較 ～豊府中学・高校における中学社会（歴史）と高校歴史の接続を考える～	河野 高宏	大分豊府
4	「歴史総合」と「深い学び」II	西 裕一郎	大分鶴崎
5	母語から第1言語への考え方について	山田 憲昭	日田三隈

### 「新たな視点と原点」

廣岡 健瑠 (大分豊府)

「社会科教育」分科会では、提出された5本のレポートについて研究協議が進められました。大きく分けて、地理総合、歴史総合、公共の三つの科目に関する内容です。日田三隈分会の山田憲昭さんからは、地理総合の授業における「母語」という記述についての問題提起がなされ、人権の視点も踏まえて、議論されました。中津南分会の田尻洋佑さんからは、日常のジグソー法による授業実践について発表され、参加者も実際に体験し、それぞれの授業での応用の仕方等について議論されました。大分鶴崎分会の西裕一郎さんからは、「アメリカ外交史を主軸とした歴史総合の授業構想」について発表され、新たな視点で国民国家の授業を構想する方法について議論されました。大分豊府分会の河野高宏さんからは、中学歴史と高校日本史のつながりについて発表され、中高のつながりと授業づくりの方法等について議論されました。最後に大分豊府分会の廣岡からは大分県教員採用試験の公民の模擬授業の問題に関する発表がなされ、授業構想について議論されました。各レポートから多くの学びがあり、充実した時間を過ごすことができました。

第4分科会		数学教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	公式を使わずに解いてみる いくつかの教具	木本 学	中津東定時制
2	「それでいいのか?」と思った数学の記述についてなど	沼田 庄司	中津東定時制
3	最近の授業について	橋木 一郎	高田
4	数学内閣 -私が権力のある総理大臣だったらやる政策-	宮崎 浩幸	大分上野丘

### 「自由なアプローチ」

仲西 洸樹 (大分上野丘)

本分会では4人のリポーターの方から発表がありました。1人目の宮崎さんは、社会の諸問題を数学的に考えることで解決策を出せることがたくさんあるという興味深い発表をしてくださりました。2人目の木本さんは、様々な教具を紹介してくださり、板書やICTとは違った生徒の興味関心のひきつけ方・内容の定着について共有することができました。3人目の沼田さんは問題集で数学的に正しいか根拠を示されていない解答についての疑問を投げかけ、全員で協議をすることができました。4人目の橋木さんは大学入学共通テストの過去問から、1年生向けに行った探求プログラムの題材の面白さや生徒の様子を話してくださり、問題のもつ面白さを全員が感じることができました。4人の方のレポートはどれも数学というものを生徒にどう考えさせていくのかを改めて考える良い機会となりました。

第5分科会		理科教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	探究的学びを広げる「宇宙」を教材とした学習とその可能性	藪亀 尋子	国東

第23分科会		教育条件整備の運動	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	教育条件整備	長尾 秀之	玖珠美山

### 「興味・関心を持たせる授業を行うには」

小池 加寿子 (新生支援)

まず、藪亀尋子さん(国東分会)より、探究的学びを広げる「宇宙」を教材とした学習についての研究報告がありました。藪亀さんは「生徒は『宇宙』という言葉を知るとテンションが上がり、楽しそうにとりくむ。本校では「SPACEコース」開設に向けて「高校SPACE物理」の科目でとりくんでいるが、この教材は他の学校で取り入れても楽しいのではないかと、気づきを述べました。参加者からは多くの質問が上がり、宇宙関連教育について校内で全体計画を立てる人がいないことが教科・科目担当者間の連携を難しくしていると校内体制の課題が共有されました。

次に、長尾秀之さん(玖珠美山分会)より、理科教育における実験設備の現状について報告がありました。長尾さんは「本校の化学室には生徒分のパーナーすらなく、やむを得ず自分で注文した。立て替えた費用については校内で交渉中である。県教委からは実験を中心とした授業を進めるようにいわれるが、実習教師も配置されていない中、設備整備の課題が解消しなければ、いずれ実験指導技術を持った教師が大分県にいなくなってしまう」と警鐘を鳴らしました。討議では、業務費用の自己負担(手出し)の問題を中心に様々な情報交換がなされ、県立学校でも公用携帯電話の貸与を求める運動を進めるべきだとの意見に賛同の声が多く上がりました。

第6分科会		芸術教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	学校教育における高等学校音楽科の役割について	稲田 雅史	別府鶴見丘

第10分科会		職業教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	大分工業高校の工業教育	佐藤新太郎 藤本 一輝	大分工業

### 「満足間違いなし、濃厚な180分」

重安 寛幸 (白杵)

芸術・職業教育の2つの分野が合同開催となり、芸術からは稲田さんが「高校で音楽を教えるために小中で何を学んだか？」と生徒に確認するところからスタートするそうです。スタサポは音楽（芸術）にはなく、小中高の連携もないため各校で学んだことも様々、レベルも様々だといいます。例えば私が学んだト音記号のドの位置は実際はソの位置だそうです。（高校では移動記号でト音記号も動くため、ドだと思っていた場所が違う音になりえる）記号の場所によって音が変わることを知っていれば話は早いのですが、固定観念でドはそこだ。と覚えている子との差異が生じると。そこから音をどうデザインしていくか？といった日常で出会う音に対し1時間と短い間でしたが実りのある討議ができたと思います。

職業訓練では佐藤さん、藤本さんの2人による危険物の資格取得の教え方の工夫、5S運動に工業ならではの6つめのS（Safety）を付け加えてみるなどクラスの話から水車による水力発電でケニア大使館の目にとまった話、学校の野球グラウンドにLED照明をつけるなどここで伝えるには文字数が足りないほど濃密な話を聞かせていただきました。

第11分科会		自治的諸活動と生活指導	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	心理テスト「hyper-QU」各群と生徒の自尊感情自己評価の関係について～学級満足度向上を目指す取り組み～	佐藤 伸介	佐伯鶴城

第22分科会		地域における教育改革とPTA	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	PTAとの連携について	後藤 昌幸	大分雄城台

第24分科会		総合学習	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	国東高校SPACEコースについて ～県が主導する大分空港構想も運動して、国東高校で進められている生徒を全国募集する宇宙コースの現状と課題～	藪亀 尋子	国東

### 「課題解決の糸口が教研にある。悩み・課題の共有って大切！」

竹下 悦子 (安心院)

リポーター3人を含む、合計8人の参加でした。最初に、佐伯鶴城分会の佐藤伸介さんより、心理テスト「hyper-QU」と学級満足度向上を目指すとりくみについて報告がありました。会場では、RAMPSの導入開始や、実際に心理テストが活用されていない実態等の悩みもだされました。次の発表は、大分雄城台分会の後藤昌幸さんより、増加するPTA未加入世帯に対するとりくみが報告されました。この問題について、「周りの方々のお世話になっているという意識や、自分が周りを支えるという意識が薄くなってきているのではないか。組合の加入に対しても同じことがいえるのではないか」という意見がだされ、大変深い問題であることが共有されました。最後に、国東分会の藪亀尋子さんから探究学習実践報告でした。しかし藪亀さんの訴えは、2025年度のSPACEコース開講に向けて、とにかく人員が足りない！全体の流れを作る人材が配置されていない！というものでした。これに対して、どのように県に訴えることができるかが話し合われました。最後に、「一人ひとりの悩みを共有することで、他校での課題も含めて解決の糸口を見つけることができる。これが教研の意義の一つである」という意見を共有して、分科会を閉じました。



第13分科会		人権教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	企業と協力する人権教育	清原 満	日出総合
2	大分豊府での人権教育	福田 洋平	大分豊府
3	みんなの立場宣言	杉崎 淳	竹田
4	人権学習で大切にすることとは？	佐々木正洋	臼杵

### 「各学校における人権教育のとりくみ」

杉崎 淳 (竹田)

1. 清原満さん発表「企業と協力する人権教育」について、(株)ソニー・太陽と連携して障がい者とのかかわり方や合理的配慮、ユニバーサルデザインについての学習を行っている。同校の山野さんと以前勤務されていた河村さんから学校や生徒の現状の説明もあり、人権教育を進めていくうえでの難しさなどを議論しました。

2. 福田洋平さん発表「大分豊府での人権教育」について、人権教育のカリキュラムや前任校での経験を活かしたとりくみの報告がありました。特に、生徒が主体となって発行している「人権新聞」は良いものだと思います。

3. 杉崎淳さん発表「みんなの立場宣言」について、在籍する地区出身の生徒の立場宣言に至るまでの、家族と学校とのかかわりを報告しました。参加者からは、生徒が宣言をしようとしたきっかけやその後のクラスの様子などの質問がありました。

4. 佐々木正洋さん発表「人権教育で大切にすることとは？」レポートのみでした。

第14分科会		障害児教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	未来の芸術文化担い手育成事業を終えて	稲田 雅史	別府鶴見丘
2	「各教科等を合わせた指導」から教科等の指導へ ～大分県における見直しの動きと課題～	濱田眞一郎	由布支援
3	県内の支援学校の（意識や設備）に関わる学校の現状について	堀田 文雄	由布支援
4	オンライン授業の効果について	末永多香光	もう

### 「交流を通じてお互いを尊重し合う大切さ」

河津 知子 (ろう)

分科会では、4本のレポート発表がありました。別府鶴見丘分会の稲田さんは、「未来の芸術文化担い手育成事業を終えて」というテーマで、特別支援学校との音楽や文化活動を通じた交流が生徒の興味を引き出し、学びの場を広げる効果があったという報告がありました。由布支援分会の堀田さんは、各支援学校の「呼称」と「施設設備」アンケートの結果報告があり、現状や課題について議論しました。もう分会の末永さんは、「オンライン授業の効果について」というテーマで、視覚障害を持つ生徒同士の交流を通じた授業では、操作的トランザクションを用いて生徒同士の意見交換を促進することで批判的思考を育み、積極的な発言が見られるようになったとのことでした。由布支援分会の濱田さんは、「合わせた指導」の教育課程の見直しの動きや教育課程見直しのとりくみを整理して、評価基準の整備が必要だとの報告でした。私は、交流活動を通じて、お互いを尊重し合い、温かい雰囲気の中で学べる場を整えることが良いと感じました。

第18分科会		平和教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	本校の平和教育について ～地域の戦争遺産を教材に～	佐藤 洋一	中津東定時制
2	パレスチナで起きている事から考えるこれからの反戦教育と学校図書館	深藏 剛	日出総合
3	2024年の平和に関する教材について	山田 憲昭	日田三隈
4	高校生平和大使・高校生一万人署名活動をとおして考えたこと	仁木 史絵	三重総合
5	ゴジラマイナスイオン	日田定時制分会	日田定時制
6	英語の授業の中で平和について考える	山田 知之	日田三隈

7	東京平和学習の旅に参加して	緒方 里美 河野 里枝	日田三隈
---	---------------	----------------	------

### 「戦後79年目～地域教材、紛争に共感」

山田 憲昭 (日田三隈)

中津東高校定時制分会は、「本校の平和学習について～地域の戦争遺産を教材に～」で佐藤洋一さん・石川洋一さん・佐藤瑞乃さんがレポートされました。2020年以降はコロナで実施できていなかった全校一斉平和学習を、夏ではなく文化祭の企画にできないか、教科間の連携と生徒会の生徒と地域の戦跡をめぐる、宇佐市や豊前市など周辺の戦跡も視野に入れて計画を進めています。「教え子を再び戦場に送らない」ために、生徒と共に地域に密着した活動を提案されていました。

日出総合分会は、「パレスチナで起きている事から考えるこれからの反戦教育と学校図書館」で深藏剛さんがレポートされました。他者の痛みに共感することや、世の中の空気を敏感に感じることが、おかしいことはおかしいと言葉にする、人権と戦争反対を訴える平和であるように思うといわれていました。

来年の戦後80年の節目に向けて、活発な意見交換があり、良い時間を過ごせました。

第19分科会		情報化社会と教育・文化活動	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	学校図書館・学校司書が行う探究活動支援	晝間 まみ	杵築
2	初めての？探究学習の支援	阿野 卓也	爽風館定

第21分科会		カリキュラムづくりと評価	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「各教科等を合わせた指導」から教科等の指導へ～大分県における見直しの動きと課題～	濱田眞一郎	由布支援

### 「支援学校の指導の在り方・探究学習における図書館の在り方」

西口 麻衣 (別府鶴見丘)

まず、由布支援の濱田さんより「『各教科等を合わせた指導』から教科等の指導へ」と題して発表をいただきました。学習指導要領の改訂により「合わせた指導」から各教科等への指導となり、勤務校でのとりくみについての実践例を交えながら、熱い思いが伝わるレポートでした。続いて、爽風館定の阿野さんより「初めての？探究学習の支援」と題して、探究学習を指導する際の教員の困りごとを“気軽に”相談できる図書館のサポート体制について、非常に興味深いお話がありました。企画を運営委員会に申し周知することで職員の反応が変わったというお話に、一同盛り上がりました。最後に杵築の晝間さんより、「学校図書館・学校司書が行う探究活動支援」について発表がありました。探究学習でどのように図書館を利用してもらうか、3年間を通じた細かな実践指導例を発表いただきました。探究学習の指導、図書館の在り方などについて多くの意見が交わされましたが、私たち教員も学び続ける必要があるという話でまとまりました。

第25分科会		定時制・通信制・分校の教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	大分県の定時制通信制高校及び分校の現状と通信制高校の課題	加藤 博晴	爽風館通
2	ある生徒との1年間	竹本 哲也	大分工業定
3	さながら 定時制のころ	横山新太郎	日田定
4	ココロのボス	日田定時制分会	日田定

### 「第25分科会報告」

姫野 茂幸 (別府支援)

#### 加藤博晴 (爽風館・通信)「大分県の定時制通信制高校及び分校の現状と通信制高校の課題」

各分会へメールで問い合わせをしてそれをまとめた。過去3年間の各校の生徒数と教員数は爽風館の定時制以外は生徒数が増え、教員数はそのまま。定時制通信制高校の共通した課題は教職員不足と職員の年齢構成が高齢に偏っている。不

登校傾向の生徒やさまざまな課題を抱えた生徒の指導には人手がかかせない。

### 竹本哲也(大分工・定)「ある生徒との1年間」

人員不足でない学校での現状とAくんとかかわりについて。保護者が「本人に任せています」と本人の状況がわからない家庭環境とかかわり「これが定時制なのか」と感じた始まりから、進路決定や卒業まで学年の連携をとりながらの実践報告と学校の課題について。指導方法は各先生の個性をだして様々なものがあってって良いと思うが、目指す方向は同じでならないと思っているがこの部分が本校の課題である。

### 日田定時制分会「ココロのボス」

なぜ教職にといった自身の想いから、『障害児』の高校進学を実現する全国交流集会in旭川』に参加した思いまでが全部つながっているスケールの大きい報告であった。組合員として「微力だけど無力じゃない」たとえそれが実現しなくても次の世代にバトンを渡すという気概を持ってコツコツ日々生徒と共に歩んでいく。

第16分科会		両性の自立と平等教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	育児休業を取得して感じたこと	後藤 淳二	大分西

レポートのみでの参加でした。

また、第74次全国教研に、以下の5本のレポートを推薦することが決定しました。

分科会名	リポーター(分会名)	レポートタイトル
日本語教育	屋嘉比 心(中津北)	高等学校国語教室における特別支援的環境の必要性
職業教育	藤本 一輝(大分工業)	大分工業高校の工業教育
情報化社会と教育・文化活動	阿野 卓也(爽風館定時制)	初めての?探究学習の支援
カリキュラムづくりと評価	濱田眞一郎(由布支援)	「各教科等を合わせた指導」から教科等の指導へ

## 平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立 日教組第74次教育研究全国集会

**全体集会** とき: 1月16日(木) ところ: Web

**分科会** とき: 1月24日(金)~26日(日) ところ: 神奈川・東京

日教組の第74次教育研究全国集会は1月16日に全体集会をWebで行い、全国で約3,000人が視聴しました。1月24日~26日には神奈川・東京で分科会が開催され、実践の交流と様々な教育課題に関する議論が3日間にわたって行われました。全国大会とあわせて全国から、のべ11,000人が参加しました。大分高教組からはリポーター4人、司会者1人、本部2人の計7人で参加しました。

\*\*\*\*\*

Webによる全体集会では、梶原貴日教組中央執行委員長があいさつとして、「教職員不足・未配置の問題は子どもたちの学びに大きな影響が出ており、教職員の長時間労働の是正を最優先課題とする働き方改革の必要がある。また、今年、戦後80年を迎える節目の年を前に、日本被団協が2024年ノーベル平和賞を受賞したことは大きな喜びであり、改めて『教え子を再び戦場に送るな』の不滅のスローガンのもと、引き続き平和教育の実践研究を推し進めることを決意する」と述べました。現地実行委員長の島崎直人神奈川県教職員組合執行委員長は、幼児期から青年期まで

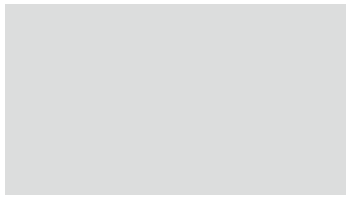
の各時期において、当事者の言葉とともに学校だけでなく地域社会としてとりくんできた実践紹介が行われる特別分科会について触れ、「認識を深め、未来を模索していきましょう」と述べました。

記念講演では中村涼香さん(元高校生平和大使 KNOW NUKES TOKYO共同代表)と畠山澄子さん(ピースボート代表)が「戦後80年、今、未来に伝える平和」をテーマに対談しました。対談の最後には、「教職員や身近なおとなが、一生懸命伝えようとしていることは、必ず子どもたちの心に残ります。学校で平和教育を続けることは大変で



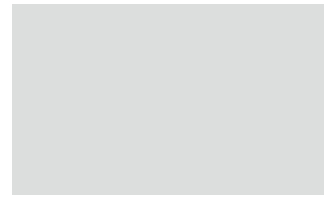
す。私たちも応援できることがあれば応援したいと思いま  
す。みんなで社会のあちらこちらに平和の種まきを一  
緒にやってみよう」と  
日教組組合員へのメッ  
セージをいただきました。

24日からの分科会  
では、24の分科会に分かれ  
500本の教育実践リポー



記念講演の様子

トについて共同研究者とともに討議を深め、最終日にはそ  
れぞれの分科会での総括討論を行いました。



分科会の様子

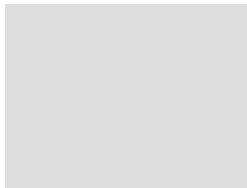
日教組第74次教育研究全国集会に参加して ～全国教研還流報告～

日本語教育

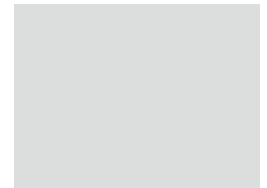
「高等学校国語教室における特別支援的環境の必要性」

リポーター・屋嘉比 心 (中津北)

活気がありつつ、お互いの実践  
を尊敬する雰囲気にも包まれた良い  
会だった。高校の実践でどれくら  
いのお土産を渡せるか心配であっ  
たが、国語教育の中に特別支援教  
育の視点は必要だという声をかけて  
いただいて、これからの  
励みになった。逆に小学校中学校  
の実践を聞くことができ、高校に  
生徒たちを送り渡すまで、数々の  
努力と実践があることを改めて知  
ることができた。このような機会  
があれば小中高といった、縦のつ  
ながりを意識することはできな  
いかもしれない。



会に県立学校からの参加が少な  
かったので情報交換という意味で  
は収穫は少なかったですが、他県  
の教育現場の実情を知ることがで  
きたので、それだけでも参加の意  
義が大きかったと感じています。

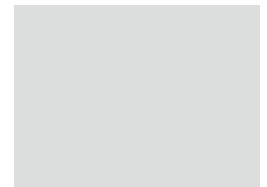


カリキュラムづくりと評価

「『各教科等を合わせた指導』から教科等の指導へ」

リポーター・濱田真一郎 (由布支援)

全体を包括するような分科会から  
なのか、参加リポート  
は10本と少なかったが、いろいろ  
と示唆に富んだ分科会だった。教  
育課程とは大人が子どもたちに課  
すものだが、カリキュラムといえ  
ば、その語源からすると子どもた  
ちが走る道ということで、かなり  
様相が異なってくる。正直にい  
えば、自分自身も特別支援学校の  
教育課程の大きな見直しにかか  
らなければ分からないままに済ま  
していても多かったように思う。  
今回楽しく学んだことを、いろ  
んなところに還流していくことと  
したい。

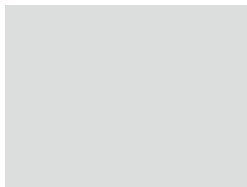


職業教育

「大分工業高校の工業教育」

リポーター・藤本 一輝 (大分工業)

中学の討論の中で、技術科と理  
科は、失敗や成功の捉え方が異な  
るものの、どちらも失敗を学びに  
変える教育的意義を持っていると  
感じた。技術科は創造性や実践力  
を高める中で失敗を次の成功に生  
かし、理科は失敗を科学的探究の  
出発点として活用している。多角  
的な学びを生徒が得られるよう教  
育の幅が広がる。



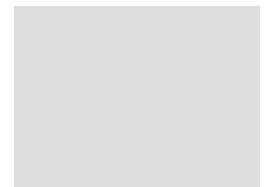
職業教育の中で討論された内容  
では、普通高校と工業高校それ  
ぞれの特徴を正しく理解し、生徒  
の希望や適性に合った選択肢を  
提供することが重要であると感じ  
た。不登校や多様化が進む中で、  
柔軟かつ魅力的な教育を実現す  
るためには、学校運営や教育内容  
の見直し、地域や産業界との協  
力が鍵となる。

また、全体を通して、様々な人  
や考え方、捉え方があることも  
知った。

外国語教育

司会者・仁木 史絵 (三重総合)

全国教研の「外国語教育分科会」  
に初めて司会者として  
参加しました。全国各地からたく  
さんの仲間が集い、それぞれの  
実践報告を行いました。小中学校  
ばかりで、高校のレポート報告が  
全くなかったのが残念でしたが、  
小中学校の様子がよく分かりまし  
た。特に小学校では、クラス担  
任が英語の授業を行うにはとて  
も大変だし、専科の教員がいて  
も週に1、2回しか同じ学校に勤  
務しないので生徒との人間関係  
の構築に時間がかかるなど、課  
題が山積していることがよく分  
かりました。また、校種にかかわ  
らず、「なぜ英語を教えるのか・学  
ぶのか」を常に問い続けること  
の重要性を再確認しました。共  
同研究者は主に大学の教授でし  
たが、話がとても興味深いもの  
でした。来年度以降は、高校から  
の報告も望みます。



情報化社会と教育・文化活動

「初めての？探究学習の支援」

リポーター・阿野 卓也 (爽風館定時制)

貴重な機会をいただき大変勉強  
になりました。同じ分科